

<p>入退院支援ツール</p>	<p>なし</p>
<p>具体的な成果・効果</p>	<p><u>患者数、算定件数などのプロセス評価や業務の効率化、患者満足度の変化など成果・効果を記載してください</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来で薬剤師による面談を行うことの効果 <p><病棟業務への影響></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院前に薬物治療に関する問題点をあらかじめ抽出しておくことで、入院してから病棟薬剤師が薬物治療への介入をスムーズに開始できるようになった。得られた情報は、薬剤管理指導記録に準じた形でカルテに記載をしている。 <p><休薬が必要な薬剤の確認></p> <p>薬剤師は、得られた処方情報を薬学的な観点から評価し、入院および治療に向けて、休薬が必要な薬を確認している。入院後では、休薬期間が不十分になる場合も多く外来時点で確認ができることが利点である。</p> <p><アレルギー歴の情報収集></p> <p>アレルギー歴については詳細を聞き取り、外来の時点で電子カルテへ登録をすることで医師による処方オーダーをシステム上で不可能にすることができる。</p> <p><看護師との協働></p> <p>看護師は、転倒転落アセスメントシートを記入している。アセスメン</p>

	<p>トシートには、薬剤に関する項目があり、薬剤師はアセスメントシート作成の補助を薬剤師が行っている。</p> <p>・入院支援室対応患者とプレアボイド報告件数</p> <table border="1" data-bbox="469 456 1294 701"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>入院支援室対応患者 件(月平均)</th> <th>プレアボイド報告 件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015</td> <td>113 (12月のみ)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2016</td> <td>1,718 (143.2)</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>2,321 (193.4)</td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table>	年度	入院支援室対応患者 件(月平均)	プレアボイド報告 件	2015	113 (12月のみ)	1	2016	1,718 (143.2)	17	2017	2,321 (193.4)	37
年度	入院支援室対応患者 件(月平均)	プレアボイド報告 件											
2015	113 (12月のみ)	1											
2016	1,718 (143.2)	17											
2017	2,321 (193.4)	37											
<p>成果等を発表した学会および成果等と関連した学会発表</p>	<p><u>発表演題名、学会名、発表年度を記載してください</u></p> <p>岡山大学病院における入院支援室の現状と課題，日本医療マネジメント学会 第19回 岡山県支部学術大会（2017）</p>												
<p>成果等を報告した論文・雑誌および成果等と関連した論文・雑誌</p>	<p>なし</p>												